

国語 第3学年 国語辞典を使おう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確かめる。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「国語辞典を使おう」 教材名「国語辞典を使おう」

2 単元の目標

辞書の使い方を理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確かめる学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①辞書の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）

〔思考・判断・表現〕①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。

〔主体的に学習に取り組む態度〕①国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確かめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確かめる。この教材では、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

辞典を開いて柱と見出しの並びを示し、最初の文字から順に比べる。見付けた項目では、意味の番号と用例を区別し、自分の文に合う意味を選ぶ。想定する難しさは、同じ表記ならいつでも同じ意味と考える、文の前後を読まず辞書の意味を写す。評価では、辞書の使い方を理解し使っているかを、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。既習の語を辞典の並び方で探し、見出し語・意味・用例を区別して読む。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○既習の語を辞典の並び方で探し、見出し語・意味・用例を区別して読む。文中の意味に合う説明を選び、自分の文で確かめる。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。評価：知①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

辞書の使い方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕(2)イ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。

○「この語を探す時、どの文字まで同じかを順に比べますか」

【めあて】国語辞典の並びと見出しを使い、語の意味を確認める。

予想される児童の反応：・同じ「かける」でも行動が違う。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「この語を探す時、どの文字まで同じかを順に比べますか」

既習の語を辞典の並び方で探し、見出し語・意味・用例を区別して読む。文中の意味に合う説明を選び、自分の文で確かめる。

対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。

予想される児童の反応：・同じ「かける」でも行動が違う。

・前後を読むとどの意味か分かる。

・辞書には意味が分かれて書いてある。

指導上の留意点：辞典を開いて柱と見出しの並びを示し、最初の文字から順に比べる。見付けた項目では、意味の番号と用例を区別し、自分の文に合う意味を選ぶ。

想定する難しさ：同じ表記ならいつでも同じ意味と考える、文の前後を読まず辞書の意味を写す。

評価では、辞書の使い方を理解し使っているかを、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：知① 辞書の使い方を理解し使っている。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。

予想される児童の反応：・辞書には意味が分かれて書いてある。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この語を探す時、どの文字まで同じかを順に比べますか」。中央は、同じ言葉を使う文、文中の意味、意味を判断した前後の語に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

